

みなさんは春の花といえば、何を思い浮かべるでしょうか。代表的な桜を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。僕も同じで桜を思い浮かべます。僕には、思い入れのある、桜のエピソードがあります。

僕が生まれた二〇〇五年、僕の祖父は、祖父の所有している畑の一角に、小さな桜の木を植えました。

「この桜と一緒に、大きく成長してほしい。」

そんな願いを込めた桜だと祖父は言いました。そして

「いつかあの桜を見ながら、一緒にお酒が飲みたい。」

祖父はそんな言葉もよく口にしていました。

しかし、その願いは、叶わなくなってしまいました。今から二、三年前、度重なる台風や豪雪の影響により、成長途中だった桜の木が折れてしまったのです。祖父が何度も修復を試みましたが、自然の脅威には勝つことができず、桜の木は諦めるしかありませんでした。

当然祖父は悲しんだし、その願いを知っていた僕も悲しくなりました。

この温かい、でも少し残酷なエピソードが桜を僕にとって特別な花へとして行きました。

祖父の育ててきた桜は、咲くことができなくなってしまいました。でも、春になれば、ここ神岡でも色々な所で、沢山の綺麗な桜を見ることができます。そして、その桜を見るたびに折れた桜を修復しようとする祖父の姿や、祖父の深い愛情を思い出すのです。

僕は今十四歳です。五年経つと二十歳になります。二十歳になったとき、僕はこの神岡にはいないかもしれません。

けれど、二十歳になったときには、この神岡町に戻ってきて、祖父や、家族と、桜を見ながら一緒にお酒が飲みたいなと思っています。

一度失いかけた祖父の夢は、今となっては僕自身の夢にもなっているのです。